

教育目標

- 自ら学ぶ生徒
- 自他を思いやる生徒
- 健康でたくましい生徒

学校だより

ひらく



第29号

平成28年 2月 8日発行

須賀川市立第三中学校

TEL 73-2377

発行責任者：校長 高崎則行

身に付いた所作は美しい—「晴れ」と「褻」の区別



いきなり見出しに日常生活ではあまり使われない文字を使いました。「褻」は「け」と読みます。「晴れ姿」「晴れ舞台」というように、「晴れ」というのは「晴れがましい」「表向き」の場という意味です。「晴れ着」の「晴れ」もそうです。それに対して、「褻」はよそゆきでないこと、日常、普段の意味です。社会人には、言葉遣いや立ち居振る舞いでも、この「晴れ」と「褻」の区別が求められます。私も自分の振る舞いにハッと気づかされるが多々ありますから、まだまだ修行半ばです。

3年生は、いま「晴れ」の言葉遣い、立ち居振る舞いに気を付けて面接の練習をしています。学年の先生からは「普段からやって身に付いていれば、いまさら驚くことはないんだよ」と言われているのではないかと思います。先生と話をするときも授業中の対話と休み時間などの雑談との区別をする、職員室への入退室、そして用件を伝えるとき、部活動などで他の施設を利用するとき、職場体験で事業所の方と話すとき、来客の対応をするときなど、「晴れ」を意識する場面はたくさんあります。こういう機会を生かして、「晴れ」と「褻」の区別を意識できるようにより意図的に指導してまいりたいと思います。

さて、面談の練習では、すでに身に付いている生徒もいます。吹奏楽部の生徒は特にしっかりしていて美しいとさえ感じます。特設駅伝部他、運動部の中心選手もなかなか堂に入ったものです。その他の生徒も練習の甲斐あって大きな問題はありませんが、なお練習の最後に「しっかり身に付くように面接まで日頃の生活でも意識して実行するんだよ。」とアドバイスをして校長室を送り出しました。

余談ながら、私の長男が就職する時、わが家では十分な指導ができなかったため、ビジネスマナーの本を買って与えました。長男は、新入社員の事前研修でもっと詳しい資料をもらったからいらないと言っていました。家を出た後いくら探してもないので、多分持って行ったのだらうと思います。



来年度の教育課程（計画）のこと

文化祭は1日開催（文化センター会場）で予定しています

ただ今、全職員で分担、協議を重ねながら来年の教育計画を作成しているところです。本年度の反省に加え、ここ数年間の状況を勘案し、年間を通してより充実した教育活動が展開できるよう改善を図りたいと考えております。

職員会議で最も議論を行ったのが、文化祭の件です。本校では、3年生を中心に松明あかしの準備も並行して行うため、文化祭の準備・練習に十分な時間が取れないという問題がありました。そのため、これまで文化祭の中で行っていた出し物（イベント）の一部を縮小、または期日をずらして、文化祭は1日で行う方向に進んでいます。また、文化センターを会場に行うため平日開催となります。

なお、2年生の3月に修学旅行を実施しますので、2年生の学習旅行は廃止します。しかし、2学年進級後の学級の一体感が高まるような行事は、1学期の早い段階で計画したいと思います。

小中一貫教育の進捗状況6

各学年の新体力テストの結果については、すでに学年だよりでお知らせしました。詳しいことは学年だよりを見ていただくとして、須賀川三小との協議で、走力・持久力を課題として忍耐力・挑戦の意欲を高めていく必要があることを確認しました。

さて、施策4は、体力・運動能力の向上です。運動能力の発達の主要な特徴として、①10～12歳が人生で運動能力が発達する時期で「ゴールデン エイジ」と呼ばれていること、②それまでに基本の運動ができていないと「ゴールデン エイジ」に十分に伸びないこと、③小学校入学以前の基本的運動の未熟さは10歳くらいまでに修正がきくこと、④「ゴールデン エイジ」を無為に過ごす競技スポーツの専門性が高まりにくいことなどが言われています。施策2、施策3と同様に、体育指導の基準となる学習指導要領などを十分研究し、小・中学校の体育指導の積み重ね、部活動の接続、校外生活における運動習慣の3つを柱に小学校とともに取り組みます。

また、勉強と運動の両立はむしろ人間の脳が本来求めていることで、「ゴールデン エイジ」までを勉強または運動のどちらかにシフトしてしまうのは、どちらにもよくないのだそうです。やはり、若いうちは「文武両道」がよいのですね。

😊 サラダのメニューに工夫 😊

1月19日(火)の給食には「かみかみ根菜サラダ」、21日(木)には「キャベツと豆のサラダ」が出ました。お子さんの評判はどうだったでしょうか？ 栄養士の記録には、こうあります。「家庭では、根菜類のサラダを食べる機会は少ないと思うので、給食でそのおいしさを知り、食物繊維をしっかり摂ってほしいです。」

「子どもたちが苦手とする『豆』のサラダでした。子どもたちが食べやすいように砂糖を多めに、隠し味にしょうゆを加えてドレッシングにしてみました。」

2月10日(水)、授業参観日の給食試食会でも、創意を凝らし、腕を振りますので楽しみにしててください。

施策4: 体力・運動能力の向上

「発達の正しい理解に基づく丁寧なつなぎ」

- 1 系統性・発展性を踏まえた教育課程の編成
 - 「学習指導要領・解説編」の研究
 - 「体力・運動能力づくりプログラム」の活用
- 2 「丁寧なつなぎ」のための相互アプローチ
 - (1) 全教員参加の授業交流(再掲)
 - 体育・保健体育での「並行授業」※
 - 互いの指導内容や指導方法、児童生徒の発達に関する理解を深める「見せ合い授業」強化期間(各学期1回、各2週間)
 - (2) 文化部も含めた部活動での接続・交流
 - 小学校の特設クラブの再編
 - 小学生と中学生の交流、体験入部、部活動参加
 - (3) 発達段階に応じた運動習慣の形成
 - 家庭における運動習慣の形成に関する啓発
 - 休日等、余暇の善用に関する生活指導

【参考】

運動の組み合わせができるようになる

幼児期に獲得した基本的な運動動作をより習熟させ、組み合わせるようになる。

6～9歳



さまざまな遊びを豊富に行うことで、多くの組み合わせが可能になる

10～12歳

ゴールデンエイジ!!



「即座の習得」が可能に。
運動能力が人生で最も発達する時期。
上手に伸ばせば
トップアスリートにだってなれる!

「運動神経のいい子に育てる本」(宝島社)より